

いわいしま通信

新型コロナウイルスによる祝島への影響

今年に入ってから、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの生活は一変しました。その影響は祝島にも及んでいます。

祝島に限らず多くの離島は、医療体制が脆弱なうえに高齢者が多く（祝島の高齢化率は約75%です）、万が一、島内にウイルスの感染が広がった場合には、多くの人命が危険にさらされることとなります。また、島の大動脈とも言える定期船の乗務員に感染者が出た場合には、定期船の運航が長期間に渡って停止される可能性もあります。

このような状況を考慮して、祝島自治会では、島の皆さんに対して、不要不急の島外への外出自粛のお願いと、島外に住む親戚などへの帰省の自粛をお願いしています。また、島外の皆さんに対しても、旅行や釣りでの島への訪問を自粛していただくようお願いしています。

さらに、定期船から島に上陸する際には、全員必ず手の消毒をしていただくようにして、島としてはできる限りの予防策を講じています。

現在、定期船の利用者は、仕事や通院など、どうしても定期船に乗らないといけないうる人にほぼ限られており、島内でのウイルス感染は発生していませんが、宿泊施設は休業状態、飲食店もお客さんが島内の人に限定されている状況です。本来なら、ゴールデンウィークやビワの農作業の手伝いで多くの方が帰省し、島が賑わう時期なのですが、今年は静かな島の日常という感じです。

◎「神舞神事」は来年に延期

今年は4年に一度の「神舞神事」の開催年に当たっており、8月の開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮して、残念ながら開催は来年に延期になりました。楽しみにされていた方が多かったと思いますが、今の状況を考えると仕方ないですね。来年の8月に無事に開催されることを祈りましょう。

神舞神事の開催予定日は、2021年8月16日～8月19日の4日間になります。

目次

新型コロナウイルスの影響	1
祝島・記憶の玉手箱	2
特別寄稿・名田正敏さん	4
共同井戸手押しポンプ修理	7
絵つき一展覧会	7
千客万来	8
「にこにこ農園」便り	9
健康食品研究会・よもぎ	10
祝島自由律俳句	11
ここは僕らのアイランド	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12

【お願い】

祝島への来島をお考えのみなさんへ

祝島は高齢化率約75%で、島は大きな高齢者施設と呼べる状況にあります。そのため、この度の新型コロナウイルスに対して強い危機感の中で暮らしています。

島内にはいざという場合に対応できる医療体制もありません。ちいさな集落はいわばクルーズ船と同じような環境とも言えます。コロナ疲れの中、離島でゆっくり過ごしたいとお考えのかたの来島もこのところ増えているようです。

ウイルスに感染した場合、多くの人は強い症状は出ないため本人が知らないまま感染を拡げてしまうことが起きてしまうそうです。

高齢者の安全のため、できるだけ不要不急のご来島をお控えいただければと考えています。どうかご理解をお願いいたします。

終息が成された折には、ぜひ祝島にいらしてゆっくりお過ごしくださることを願っています。

ひとりひとりの行動が感染の爆発を防ぎ、医療体制を守り命を救うことに繋がります。みんながこの危機を乗り越えましょう。

祝島自治会

定期船待合所や船内に貼られている
島外の方へのお願い



「祝島物語」 画・大井しげる

<連載> 祝島・記憶の玉手箱(21) ~懐かしい思い出ばなし~

語り部: ゆうちゃん、ひろちゃん、ひでちゃん

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。今回は、「いつもより若い世代の子供時代の話を書いてほしい」というリクエストがありましたので、還暦が近くなってきた、ゆうちゃん(59歳)、ひろちゃん(58歳)、ひでちゃん(58歳)の同級生3人組に、祝島で過ごした小学生から中学生時代の思い出話を聞かせていただきました。

司会: こんにちは。今日はよろしくお願ひします。3人は祝島生まれなので、小学校・中学校とずっと一緒だったんですね。

ひでちゃん: その前の保育園から一緒じゃけえ、たぶん兄弟よりも一緒にいた時間が長いねえ。

ひろちゃん: わしらの二つ上の学年までは2クラスあったが、わしらの学年ははあ1クラスしかおらだっただけえ、クラス替えいうのもなかったしのう。

司会: それでみんな仲がいいんですねえ。同級生は何人いたんですか？

ひろちゃん: 中学校卒業の時は33人じゃったが、小学校に入学したときは37人じゃったと思う。

ゆうちゃん: こないだ家を片付けよったら、こがいな物が出てきたんど。

ひでちゃん: 何か、こりゃあ。

ゆうちゃん: 小学2年の時の絵日記。

ひでちゃん: へえー！よう残っちゃたのう。うちにやあ何にも残ってなあと。

ひろちゃん: 毎日まじめに書いちょるじゃあ。絵も上手じゃあ。こりゃあ何の絵か？柔道一直線？あ、こりゃあ近藤正臣が足でピアノを弾きよるやつじゃろう、雰囲気出ちょるのう。

ゆうちゃん: こりょう読みよったら、「ひろちゃんと相撲とりました」とか書いちょるんじゃあ。それが勝ったり負けたりなんじゃが、他の人と相撲とった時は、ほとんどわしが勝っちゃるんじゃあ。「4年生と相撲して勝ちました」とか書いちょるしのう、わしやあ相撲が強かったというて自慢しょうか思うたんじゃが、ひろちゃんと同じくらいじゃったんじやのう。

ひろちゃん: おー、わしも結構強かったで。

ひでちゃん: わしやあ弱かった。

ゆうちゃん: そうそう。お前は弱かった。

司会: 相撲以外には、どんな遊びをしてましたか？

ゆうちゃん: 野球もようやりよったのう。日記を見たら出てくるんど。「かずひさくんとひでちゃんとかずとくんとよっちゃんとチームでやって、何対何で勝ちました」とか。自慢じゃないが「ぼくがホームラン何本打って勝ちました」とか書いちょるんじやあ。小学2年生の頃じゃけえピンポン野球じゃろうがのう。

司会: 三角ベースとかありましたか？

ゆうちゃん: おう、あったあった。

ひでちゃん: 三角にもならんのもあったで。ひらぎでやりよった時は、一塁とホームだけしかなかった。

ゆうちゃん: もちどでやったこともあったよなあ。

ひろちゃん: もちどでもようやりよったあ。わしが大井方のサッシを割ったこともあった。

ひでちゃん: ああ、バットを飛ばしてからなのう。

ひろちゃん: そうそう。

ゆうちゃん: ええーっ！ボールじゃのうてバットでか？

ひろちゃん: おお。竹のバットにテープを巻いちょったけえ、泳いだあとで手が濡れちょって滑ったんじやあ。

ゆうちゃん: あっはは。マジか？よう覚えちょるのう。

ひろちゃん: 覚えちょるいね。謝りに行ったんじやけえ。

司会: あそこはまだ防波堤がなかったんですか？

ひろちゃん: いいや、防波堤ができて、道が広くなったから、あそこでやりだしたんよ。

ゆうちゃん: ようあそこまでバットが飛んだなあ。ボールより飛んじよるじゃあ。

ひろちゃん: そりゃあ、本気で振ったら、ツルって抜けて飛んで行ったんじやけえ。かんじよったんじやろうのう。

ゆうちゃん：そう言やあ、中学校の時にやあ、よう学校でソフトボールをやりよったろう。「鉄筋に上げたらホームラン」言いよったが、20代・30代の時に学校に上がったら、えらい近いなあ思いよったんじゃあ。それが、最近上がったらえらい遠く感じるんよ。



祝島中学校の校舎。
この屋上に上がるとホームラン

ひろちゃん：ようあそこまで打ちよったのう。

司会：え？何なに？

ひでちゃん：正門の所がホームベースで、中学校の校舎がレフト方向。それで校舎の屋上に打ち上げたらホームランじゃったんよ。

ひろちゃん：鉄筋コンクリートの校舎じゃったけえ、「鉄筋に上げる」言いよったんよ。

司会：なるほど。

ゆうちゃん：センターやらライトの方は、畑じゃけえそこまで飛んだら二塁打じゃったんよ。

司会：金網の方に飛ぶことは？

ひろちゃん：あるよ。金網の外に落としたりチェンジ。一発でスリーアウトじゃったんよ。

司会：え？なんで？

ひでちゃん：金網の外にボールが行ったら、探しに行くのが大変じゃろう。じゃけえ、一発でスリーアウトチェンジじゃったんよ。

ゆうちゃん：見つからんこともおいかったし、学校の下の家にボールが落ちたら叱られることもあったんじゃけえ。

司会：そうなんですか。それでそういう決まりがあったんですね。

ゆうちゃん：そういやあ話は変わるけど、昔は夜になったらおとろしい（怖い）所がいっぱいあったよなあ。善徳寺の裏を夜帰る時とか怖かったで。

ひでちゃん：わしは善徳寺の四つ角がおとろしかった。

ゆうちゃん：おー、あそこもおとろしかったけえ、走って帰りよったのう。

司会：お寺だから？

ひでちゃん：善徳寺の前とか、よう火の玉が飛びよるとかいう話があったけえ、ぶちおとろしかった。

ゆうちゃん：昔はほんとに飛びよったらしいど。

司会：えーっ！

ひでちゃん：みんなが夜集まって、帰る時、東に向けて帰るのは、わしと、ゆうちゃんと、かっちゃんの三人じゃったが、かっちゃんは橋本の所の坂を上げるけえ、あそこで別れて、ゆうちゃんと二人になるじゃあ、ほいて善徳寺の四つ角で別れて一人ずつになったら、ぶちおとろしいけえ家まで走りよたいのう。

ゆうちゃん：そうそう。

ひでちゃん：ほいじゃけど、考えてみたらかっちゃんが一番おとろしかったろうのう。あそこから一人で学校の階段を上がって運動場を通過して帰るんじゃけえ。わしは今でも夜は一人じゃあよう歩かんど。

ゆうちゃん：そう言やあ、学校もおとろしいよなあ。

ひろちゃん：そろばん（塾）が終わって暗うなって帰る時、かっちゃんが「電灯で照らあちよいてくれえ」ゆうて言いよったけえ、わしがひらぎからずーっと照らしよったんで。

司会：懐中電灯で？

ひろちゃん：そうそう。わしも、柔道場（じゅうどうば）の所を通過して帰るんがおとろしかったあ。

司会：柔道場って？

ひろちゃん：今の診療所の場所に柔道場があったんじゃけど、その前は病院じゃったんかのう、戦時中に三浦で空襲があったときの死者をあそこに置いちゃったらしい。

ゆうちゃん：あの辺りはおとろしいよなあ。小学校の便所の所は昔墓じゃったんじゃろ。便所の底から手が出るとかいう噂があったよなあ。

ひでちゃん：ひろちゃんの家近くの「つなの首」（昔、つなという人が首をくくった所）もあったし。

ひろちゃん：祝島はおとろしい所がいっぱいあったが、高校で島を出てからは、おとろしい所は無いよなあ。何にも知らんのじゃけえ。

司会：祝島で鍛えられてたんですねえ。まだいろんな話がありそうですが、またの機会に。今日は懐かしいお話、どうもありがとうございました。

<特別寄稿> 祝島は人生の出発点

～ 名田 正敏 さん ～

祝島出身。関西のホテル業界で「伝説のドアマン」と呼ばれた名田正敏（みょうでんまさとし）さんに特別寄稿いただきました。

名田さんは、祝島で生まれ育ち、祖父が営む魚の仲買業を手伝っておられました。祖父が亡くなり、29歳で初めて職を求めて大阪へ出られました。34歳で大阪のロイヤルホテルに入社され、入口で客を迎えるドアマンに。並々ならぬ努力を重ね、宿泊客4千人以上の顔と名前、車の車種やナンバー、運転手の名前などを記憶し、混雑する車寄せを巧みにさばき、いつしか「伝説のドアマン」と呼ばれるようになりました。その後、ホテルプラザ、プラザオーサカ総支配人、新神戸オリエンタルホテルを経て、ウエスティンホテル大阪顧客担当部長を務められました。また、関西のホテル業界を中心とした接客法の自主勉強会「名声会」の名誉会長も務められ、後進の指導にも尽力されました。



名田正敏さん

2019年4月、祝島・民宿くにひろにて

祝島。この文字を見る度に、今でも心が温かくなる想いです。

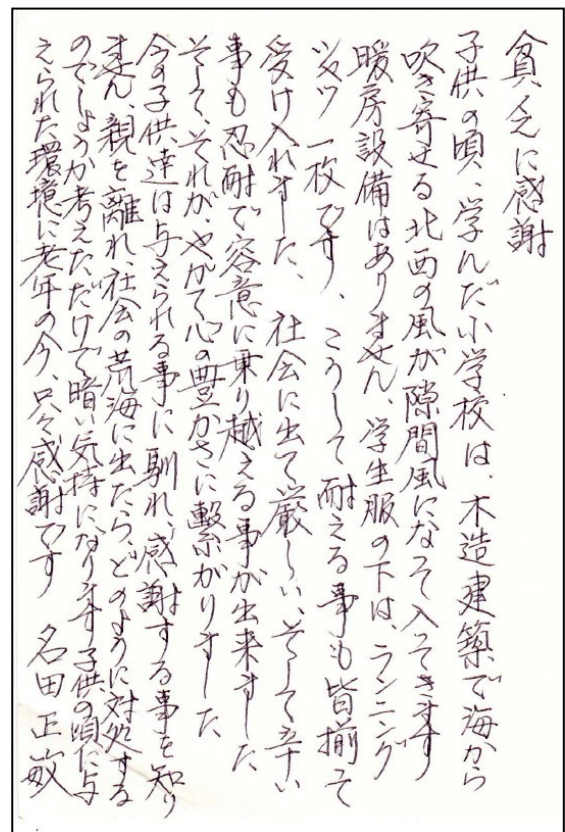
小学校の校舎の裏にある池で、トンボに糸を結びつけ「番（つが）い」にするため走り回っていた事。また、高い石垣の運動場から海を見ると、春先には鯨の親子が潮を吹きながら泳ぐのが見えて、興奮したものです。こうした環境が、私達に豊かな情感を育ててくれたのではと考えています。

一転して、経済状態は厳しく、日々の生活を支えるため、小さい時から、重い荷物を背負い山へ運ばされました。また、厳しい冬の海の中、かじかむ手をかば

いながら、櫓を漕いだものです。こうした事が、私達に逞しさを与えてくれました。下記の葉書は、全国に数十万の会員がおられる会に投書した一通です。こうした環境があったからこそ、長い人生を無事に乗り越えて来られたのではないのでしょうか。

29才で、職を求めて大阪に出て行きました。大阪の中心部にある中之島の、住友倉庫・中之島営業所。一万坪を超える広さですが、そこで住友倉庫の子会社に籍を置き、倉庫に納まっている製品を各地に発送する仕事をしていましたところ、その営業所長（後に社長になられた方）が、子会社の社員である私の事を何故か可愛がって下さっていました。5年後に倉庫が郊外に移転、跡地に国際ホテルが建設される事になった際、その方が、「君は人様に接する仕事に向いている。同じ住友系列だから私が推薦してあげる。試験を受けなさい。」と、勧められてホテルの入社試験を受ける事になりました。大阪に各国の賓客を受け入れるために大阪府、大阪市、経済界が出資した素晴らしいホテルなので試験は難しいものでしたが、その方のお力で無事入社致しました。

宿泊客、500人のうち300人は海外の人で、語学



投書した葉書

力が求められ、同僚の中には、英語はもとよりフランス語、スペイン語をこなす人々が多くおりました。それにひきかえ私は、日本語の標準語もおぼつかない事で、外国の方々が通りますと、柱の陰に隠れる有様です。私と同じ年齢の方は、もう係長、課長代理と役職について活躍をしておられ、その格差の大きさに改めて驚きました。この格差をどのように埋めていこうかと真剣に考えました。

先輩の中に一人、大企業の社長の名前と顔500人を一週間で覚え、一致させた人が出世したそうで、私もそれに取り組んでみる事にしました。先輩のような才能はありませんので、地道な方法です。週一回の休みに、覚えようと思う会社へ私の方から出向き、駐車場の出口に立ち、手帳にメモすることを2年間続けました。その間、子どもが入院した際の1日だけ休みましたが、こうして2000人を記憶しました。

努力の結果、ホテルにお越しになった際、即座にお名前を呼ぶ事ができ、大変喜んで戴きました。また、会社にお顔とお名前を覚えに行った際、顔馴染みになり、私のお客さまになって戴いたこともありました。その中の一人、元住友銀行の頭取で朝日放送の社長がある日、「今、私がホテルを建設中だ。私の所に来なさい。」と、声を掛けてくださったのです。新しいホテルで頑張ってみようと思い、退社を申し出ましたが許しが出ず、1年後やっと、後に世界一と評されたホテルに入社致しました。役職に就き、充実した日々を送るうち、部長、副支配人と昇進しました。途中、朝日放送が、シンフォニーホールを建設。落成式には、時の皇太子（現上皇）ご夫妻がお越しになられ、接待員に選ばれ、身近でサービスさせていただきました。後にも数回、接する機会があり、サービスに努めました。そうして、美智子妃殿下（現上皇后）に直接、菊の紋章の入った煙草を下賜された事が印象深い思い出です。

このような機会のおかげもあり、社長のご推薦と多くの人々のお助けを受け、国の礼儀作法を司る東京の迎賓館での研修に参加させてもらう事になりました。各国の王様、皇族方、大統領をもてなす所で、それはとても厳しい研修でした。後に小説作家の神渡先生が、「漁師の倅が世界最高のマナーを身につけた」と本に書いてくださり、赤面の思いです。

こうして私は、節目毎に、様々な人にお助けを戴

き、取り上げていただきました。それがなければ、私の現在はなかったと感謝致しております。こうした想いを人々に分かち合いたいと考え、『名声会』という会を立ち上げました。人様に接するときは、しっかり相手様の目を見つめて対応させていただきます。目は心の窓と申しますように、その方の精神状態が伝わってきますし、玄関からお越しになる足の運び方を見て健康状態を察することも努力によってできるようになります。こうした事を互いに勉強しあい、平素の営業に活かして参った会でした。216名で、30年続きました。今は求められて日本中に散っておりますが、国から勲章を戴いた人やホテル業界のトップの方も居ります。毎年12月27日、または28日何れかに、夫人同伴で集い懐しむ会としていましたが、一昨年、私が余りにも歳を重ねまして、解散させてもらいました。

今は、私達の意志を受け、若い人が活躍をして居られ、その更なる活躍を祈るばかりです。

平成8年、名田さんの引退は新聞でも大きく報道された

人望の厚さかみ締め

あなたへの感謝状

妻・名田厚子さんから

夫・正敏さんへ



自宅でくつろぐ名田正敏さん、厚子さん夫妻。正敏さんは退職後、若いころに熱中していた卓球を再開した。兵庫県尼崎市内で

兵庫県尼崎市の名田正敏さん(74)は「伝説のドアマ」と呼ばれた元ホテルマン。宿泊客4千人以上の顔を見分け、料理の好みや枕の堅さ、運転手の名前もそらんじた……。引退して9年半たった今も、その逸話は知られ、講演依頼も絶えない。妻の厚子さん(66)は、病院職員として働きながら、正敏さんを支え続けた。

(構成・永井靖二)

努力重ね「伝説」の扉

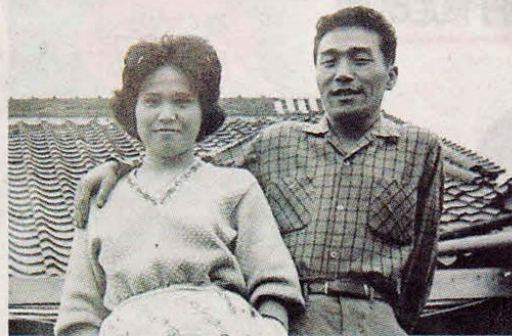
あなたがホテルマンになつたのは、親の反対を振り切つて結婚して4年目でした。遅いスタートだっただけに、あなたはお客様顔を覚えようと、必死でした。休日も得意先を訪ねては、お客様の顔や車のナンバーを頭にたたき込んでいましたね。

大阪万博のころ、勤めていたホテルに、当時の皇太子夫妻がおいでになり、お出迎えも兼ねて幼い息子2人と行った時のことを、今もよく覚えていました。いつも忙しく家にいないお父さんに、子どもたちは寂しい思いをしていたようですが、お父さんの仕事

でも、子どもの誕生日は忘れるくせに、どうやって何千人もの顔や食べ物の好みまで覚えていたのか、ずっと不思議でした。真夜中に帰ってきて、寝るまでの30分間、お客様の特徴を記した手帳を見ては暗唱を繰り返していたのを知ったのは最近です。左右の耳の形を記憶し、人の姿全体から受ける印象と組み合わせ覚えていたなんて、驚きました。

後輩の皆さんを、よく夜中に家へ連れてきましたね。うちのことで、職場では「クラブ名田」と呼ばれていたそうですね。残り物の手料理を出した相手が高級ホテルの料理長。でも、みんないつも、接客のあり方をめぐって大激論を交わしていましたね。

2人だけの初めての旅行は、銀婚式の九州1周でした。行く先々で、あなたは後輩がホテルやレストランで活躍していました。料理を食べても、ホテルに泊まっても、料金を受け取ってもらえず、あなたの人望の厚さを感じました。でも、なんだか気兼ねねして、博多では、夜中に2人でホテルを抜け出して、屋台のラーメンを食べたの思い出です。



新婚のころの2人=1961年ごろ、大阪市内で

- 名田さん夫妻の歩み■
- 60・9 正敏さん、大阪の倉庫会社に入社
 - 61・6 正敏さんと厚子さん結婚
 - 63・3 長男俊成さん誕生
 - 64・11 次男正宏さん誕生
 - 65・9 正敏さん、34歳でロイヤルホテルに入社
 - 70・3 大阪万博開幕
 - 71・1 長女多輝子さん誕生
 - 87・7 正敏さん、プラザ大阪取締役総支配人に
 - 88・5 正敏さん、新神戸オリエンタルホテルへ
 - 89春 関西のホテルマンら50人が接客を学びあう「名声会」結成
 - 93・5 正敏さん、ウェスティンホテル大阪へ
 - 96・2 正敏さん、ウェスティンホテル大阪大阪顧客部長を退職
 - 99・3 ホテルプラザ、経営不振のため営業終了
 - 03・12 名声会解散 (216人)

名田さんの奥様(厚子さん)からの感謝状(15年前に新聞に掲載された)

共同井戸の手押しポンプを修理しました

國弘 秀人

かつては島の生活を支えていた井戸水。人口が減少して、水道水がなんとか足りるようになった今でも、お風呂の水や畑の水やりなどには利用されています。島の集落にはいくつもの共同井戸があり、手押しポンプが設置されていましたが、ほとんどは老朽化して使えなくなっています。

民宿くにひろ前の共同井戸の手押しポンプも、6年前に付け替え、約20年ぶりに復活し、畑の水やりに使われたり、観光で来られたお客さん、特に子供たちが喜んで押していました。しかし、残念ながら、しばらく前からまた水が上がらなくなり、使えない状態になっていましたので、この度、部品の交換作業を行いました。自分でポンプの修理をするのは初めてでしたので、不安もありましたが、ピストン部品とライト弁なるものを交換し、無事に使えるようになり、ホッと

しました。

近所の人たちや、旅行で来られた方々に利用していただければ幸いです。



手押しポンプの部品交換作業

絵つき一覧覧会(30) 『民宿くにひろの二階から見える風景』

エッキー浴野



「民宿くにひろの二階から見える風景」色鉛筆 20X30cm

祝島に泊まる。時の流れをじっくり感じられる場所。朝、昼、夜……。地球の、宇宙の、そしてその法則に自然と乗っかってるこの人々の生きてる時の流れ……。

今年の連休は、なんとも静かな・・・というか、普段とおなじ静かな祝島でした。いつもなら、帰省してくる島の出身者と出迎えるおじちゃんおばちゃんたちで、港が賑わしゅうなるはずなのに、誰も帰って来ん、帰って来れんという、異例中の異例な事態。

店に来るおじちゃんおばちゃんたちも口々に、「うら！おとろし。子どもらぁに、絶対帰るな言うたんよ」「あんたとここにゃあ、マスクは置いちゃらんじゃろうね？どっこも売っちゃらんのと」「はあ～コロナが入ってきたら、祝島は全滅じゃけえねえ」と、子どもさんとのやり取りを話して聞かせてくれました。

連日、テレビから流れてくる情報は、一向に収まりを見せないどころか、どんどん感染者が増えているという「新型コロナ」のニュース、緊急事態宣言、そのための自粛要請、どんどん厳しくなって、ついには「島への渡航はどうぞ控えてください」という通達が自治会からも出されるようになったのです。民宿も休業状態、この4月は、民宿を継いで以来、初のお客様ゼロという、これもまた緊急事態となりました。島に住むほとんどが高齢者ということで、用心に用心を重ねざるを得ない状況、なんとも寂しいことですが、万が一にも、と皆が恐れています。

さて、一旦よそから人が入って来んとなると、新型コロナが話題に上るのも一時のこと。いつのまにか日常に戻って、あれやこれや四方山話に花が咲いているくにひろストアです。

「今年はどこのびわも少ないのお。袋はかけたんか？」と、この時期はやっぱりびわの話。確かに、花が少ないと思っていましたが、本当に、実を探して袋



タケノコの釜茹で

を掛けなければならぬほど少なく
て・・・「めずらしいじゃろ、もうかけ終わったんよ。全部で400くらいしかかけ
ちらん」「う

～ら、少ないのお」と。

ここ数年、イノシシ被害が大きいものにタケノコがありました
が、「山を歩き寄ったら、タケノコが出



タケノコの土佐煮

ちよったで。掘ってきんさい」との情報に、閉店後に早速行ってみれば、段ボール箱いっぱいの大収穫。すぐに釜茹でし、翌日から、土佐煮やタケノコご飯、天婦羅と、タケノコ三味の惣菜を並べることができました。山の恵み、万歳！です。

いつも連れ立ってきてくれちよった「三人娘」の、年長・もーちゃんは、最近足が悪うなって店までよう下りて来れず、欲しいもんがあるときは電話をかけてくるようになりました。平地ならゆっくり歩いて来れるけど、「学校の上からじゃあ、坂やろ階段やろで、滑ったらいけんけえ、よう降りん」と。学校までの長い階段と、運動場から、おばちゃん家までまた階段。そこで、島では「若手」の店主が颯爽と登場！スーパーマンのように配達に行ってくれるのです。

「三人娘」の二番目・たまちゃんと、三番目・きみちゃんは、今も誘い合うて買い物に来てくれてますが、二人の会話は、これがまた、いつ聞いても面白いんです。まずは、本来の目的の買い物タイム。「ありよう、見せて」「へえ、こりよう買うんで」「アイスはあるかねえ」「アイスはここじゃ。モナカかね？なんぼ？」「5つもらおうか」「はい、5つ。それから？」「なんかおかずがあるかね？」などなど。たまちゃんは、足が悪いので椅子に座ったまんま、きみちゃんが甲斐甲斐しゅうに動きます。たまちゃんが「ありよう見んさい。あんたあ、よお動く。1年違うたら、こんだけ違うんで。わしゃあ、足も悪いが、手もかなわん。耳も聞こえんし、目も見えん・・・」と。確かに・・・たまちゃんは89歳、きみちゃんは1つ若い88歳なんじゃけど、去年もその前も、たまちゃんお

んなじ話をしよったなあ、変わらんなあと思わずニコニコするわたしです。

たまちゃんときみちゃんは、昔から仲良しさんだったようで、戦時中の勤労奉仕の話などもしてくれました。兵隊さんとして出征された家では、畑仕事の手が足りないので、そういう家にテゴに行きよったそうです。「わしらあは、勉強さしてもらわんじゃったけえ頭ん中はカウなんじゃあ。歴史の本は、さら（真っ新＝新しいまま）じゃった。」今でいえば、中学1年生くらいのときだそうで、学徒でよそに行った子どもたちだけじゃなく、島に残った子どもたちも、一生懸命働きよったんじゃなあと思って「よお、長生きしたね」と言うたら、「長生きしすぎたわあ」と二人が大笑い・・・大変な時代を生きてきたにもかかわらず、笑い飛ばすおばちゃんたちは逞しい！

「こっちがたまちゃんの」と、きみちゃんに渡すと、「はいはい車に積んじやろう」と、荷物を持ってスタスタ・・・あれ？ズリズリ。「きみちゃん、つかかけ！引きずりよるじゃあ」「あはは、これねえ破れかけちよるんよ」「こりゃあ、こけそうなじゃあ。危ないけえ、今度つかかけ仕入れちゃげようね」「はあ、新しいの入れちよいて。お願いします」と。

「そういやあ、この前、二人を撮った写真も焼き増しして来うね」と言うと、「はあ写真を撮ったかねえ？」「どこで？」「二人ともバカじゃけえ、覚えちよりやあせん、あはは」と、笑い飛ばされてしまいました。

じつは写真を撮ったのは二度目なんですが・・・先週、仲良し二人がいい顔をしてたので声を掛けたら、「撮ってくれるんなら、引っ付こう」と二人が顔を寄せてくれたのですが・・・あれあれ。



いつも仲良しのたまちゃんときみちゃん

ということで、翌週、つかかけを仕入れて、きみちゃん家まで配達に。3足並べた中から、1つを選んで嬉しそうに、「持ってきてもらって、すみませんねえ」「ええんよ、あのつかかけを履いてきて、こけたらいけんけえね」「ありがとねえ」「で、これが写真！」と渡したら、「うら、恥ずかし」と、わたしの肩をバシッと。まだまだ力強うて、当分長生きしてくれそうです。写真のこと、覚えてなかったかもしれんけど、喜んでもらえてよかったです。

いつも帰省してこられる皆さん一人ひとりのお顔が浮かんで懐かしく、寂しく思っています。新型コロナが一日も早く終息して、いつもの賑わいが戻ってほしいものです。

「にこにこ農園」便り(5)

國弘 優子

にこにこ農園では、今年も吉原さんの草刈り&種まきのおかげで、空豆が収穫できました。幸いなことに、空豆は、昨年同様、イノシシの被害を受けませんでした。来年は、空豆畑を、もう少し広げて、購入希望者に行き渡るくらい収穫できるよう、植えてもいいなと思っています。

さて、三浦のにこにこ農園・びわ畑ですが、今年のびわは極端に数が少なかったうえに、カラスとイノシシの被害で、95%ものびわが被害に遭ってしまいました。残念！！

それにしても、今年のように島へ来てもらえなくなるなど、思いもせませんでした。来年は、島に遊びに

来ていただいて、一緒に収穫出来たらいいですね。



広々とした「にこにこ農園」

<連載> 祝島・健康食品研究会(2) ~よもぎ~

祝島には、健康にいいと言われる植物がたくさんあります。そのような植物の効能や取り入れ方を紹介する「祝島・健康食品研究会」。今回は、蓬（よもぎ）を取り上げてみました。

春になって、蓬の新芽が出始めると、摘んできては、蓬まんじゅうや蓬餅を作ります。やわらかくて美味しいこの時期

に、たくさん摘んで冷凍保存しておく家も少なくありません。そうすれば、年中いつでも、美味しいよもぎまんじゅうを食べることができるからでしょう。



祝島名物のよもぎまんじゅう

蓬は、漢方でも艾葉（がいよう：「艾」は「疾（やまい）を艾する（止める）」という意味）と言う名前でも知られ、「ハーブの女王」とも呼ばれるほど、その効能は絶大で、飲んでよし、付けてよし、浸かってよし、嗅いでよし、燃やしてよしの五拍子揃った薬草で、その効能や栄養価の高さから、まさに万能薬です。

蓬の語源は、四方によく繁殖するので「四方草」、よく萌える草なので「善萌草」ともいわれ、驚くべき生命力を持っています。

蓬には、様々なビタミンやミネラル、食物繊維が含まれていて、その成分によって効能もいろいろです。

- 浄血・増血作用
- デトックス作用
- 腸内環境の改善
- 美容効果
- 貧血の予防
- コレステロール値の改善
- 体を温める効果
- リラックス・安眠効果

◎クロロフィル

食物繊維の5千分の1の大きさで体内に摂り入れやすいため、小腸絨毛の奥に蓄積したダイオキシン、残留農薬、有害金属(水銀、鉛など)を取り除く。

◎フラボノイド

毛細血管を保護したり、丈夫にしたり、その吸収力を調整する作用がある。

◎シオネール

脳神経を鎮静化し睡眠を促す効果。いらいらした状態からゆったりした状態に気持ちを落ち着ける。消化

酵素の分泌を促進し、胃の働きを活発にするため、消化機能が改善される。殺菌・抗菌作用もある。

◎カリオフィレン

β・カリオフィレンには痛みや炎症、アテローム性動脈硬化症、骨粗しょう症などの治療に、効果があるとされています。

◎カロテン

皮膚の粘膜を形成するのを助け、肌の角質化を防ぐ作用がある。肌荒れ、乾燥肌を防止してキメ細かい肌にする効果。紫外線によって発生した活性酸素を抗酸化作用によって無害化し、シミ・ソバカスの原因となるメラニン色素の発生を抑制する。血液中の悪玉といわれるLDLコレステロールが血管内で溜まって酸化するのを防止し、動脈硬化の予防が期待できる。

◎コリン

老化防止として注目され、心臓を正常に機能させたり、動悸・息切れ・肝臓障害を防ぐ働きをする。腸内でビタミンA・B1・B2・B6・ニコチン酸・葉酸・ビタミンKなどが合成される上で欠かせない物質。ビタミンB1は粘膜や皮膚を強くし、B6も粘膜、皮膚の修復再生を促進し皮膚のアレルギー作用を強化する。

転んで膝小僧を擦りむいたとき、蓬の葉を貼りつけた覚えのある方も多いのではないのでしょうか？これも蓬の持つ殺菌効果の所以でしょう。

腰痛や神経痛など様々な症状を改善する「灸」は、蓬の葉の裏にある繊毛を集めて作った「もぐさ」が使われました。祝島でも、蓬を槌で叩いてもぐさを作り、お灸に使いました。子どもの頃に、悪さをすると灸（やいと）を据えると恐らかされたものです。

蓬の栄養を簡単に摂り入れるには、陰干した蓬を数分煮出して飲む蓬茶があります。蓬の香りが強いですが、意外と飲みやすいです。陰干した葉や抽出液を入れて蓬風呂にするのも、外側から摂り入れることができる手軽な方法です。



よもぎの陰干し

祝島自由律俳句(2)

山口県防府市出身の俳人・種田山頭火。彼の作った俳句は、五七五の定型にも、季題にもとられない自由な表現が特徴の自由律俳句といわれています。このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、毎回その中から何句かを紹介させていただいております。

息子へと帰省ことわる海おぼろ
豊作の甘夏活かす瓶の山
しずかさや渡航自粛の船着場

篠崎 彰

風薫る枇杷茶そろそろ冷ポット
切飾りつくる手休め柏餅
葉桜や万葉のとき連綿と

篠崎 幸恵



読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品／作品についてのコメント（あれば）／名前（ペンネーム可）を記入してお送りください。（応募作品の送り先）

メールの場合：haiku@iwaishima.jp（メールのタイトルは「自由律俳句」と記入）

郵送の場合：〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島 祝島ネット21事務局宛

ここは僕らのアイランド(3) 『僕たちのご飯 まだですか？』

伊達 三代子

2012年からずっと祝島のネコを撮り続けておられる、広島市の伊達三代子さんの島ネコ写真コーナーです。島ネコたちのいろんな表情をお楽しみください。

何時も大きなお皿にご飯を一杯入れてくれて
ありがとう。

お母さんのおかげで僕たちは仲良く幸せに
暮らしています。

恩返しは出来ないかも分からないけど
ず～とお母さんの傍にいます。

これからも宜しくね。

祝島ニャンコ会！



お知らせ & 募集

■離島キッチン（日本橋店）に祝島のパンフレットが展示されています

「島とつながり、島とともに成長する」をテーマに、全国各地の離島の食材や料理を提供している「離島キッチン」の日本橋店内に、今年2月1日より、全国の離島のパンフレットコーナーが新設されました。離島キッチンからの依頼により、祝島ネット21で製作した「祝島観光ガイドマップ」を100部提供いたしました。離島キッチンから、店内のパンフレットコーナーの写真を送っていただきましたので紹介します。東京周辺にお住まいの方、機会がありましたら、ぜひ立ち寄ってみてください。また、ご友人の皆様にも、ぜひお知らせいただければと思います。

離島キッチン 日本橋店

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-4-3

日本橋室町野村ビル YUITO B1F

TEL : 03-6225-2095

<http://ritokitchen.com/>

東京メトロ銀座線・半蔵門線 三越前駅 A9出口直結

JR総武本線 新日本橋駅 徒歩3分（地下道直結）



全国の離島をPRするパンフレットコーナー

編集後記

この春、コロナウイルスの感染拡大で世界中が緊急事態となりました。祝島でも神舞神事が来年に延期され、島への帰省や旅行も自粛を求められるなど、大きな影響がありました。この影響は、もうしばらく続くと考えられますが、やるべきことをやり、次への準備をしていきたいものです。

今回、特別寄稿していただいた名田正敏さんのように、一步一步地道に努力を積み重ねていく生き方は、どのような社会が訪れようとも、私たちが見習うべき姿ではないかと思えます。昨年、民宿に宿泊された名田さんに「色紙に何かひと言お願いします」と頼んだら、『出逢いに感謝』とのお言葉をいただきました。様々な人との出逢い、物事との出逢いに感謝しながら生きていけるよう努力したいと思えます。

さて、表紙の目次の下のイラストを毎回大井先生に描いていただいておりますが、今回から少し雰囲気が変わりました。キャンバス地にクレパスで描いたようなイラストがカワイイですね。

次号の発行は9～10月になる予定です。お楽しみに！

（編集長：國弘秀人）

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。

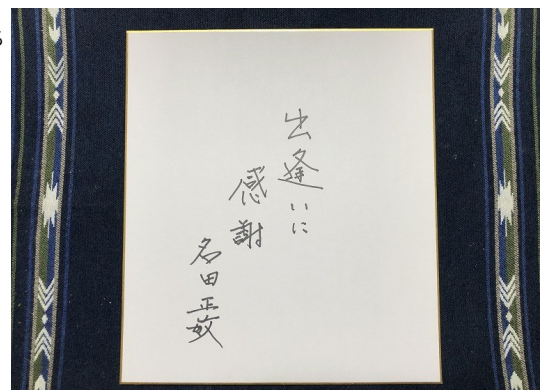
祝島ネット21会報「いわいしま通信」第61号

発行日：2020年5月27日（頒価400円）

発行者：祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



名田正敏さん直筆の色紙